



ホームページアドレス <http://www1.com.ne.jp/~mizumaki>

発行・カトリック水巻教会
編集・広報委員会
遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3
〒807-0025
TEL 093(201)0680 FAX(201)7354
第320号

宣教活動と共に典礼行為を通して教会作りに励む。 マヘル神父

私は初めて水巻教会での、待降節・クリスマスと大変素晴らしい時を過ごしました。

この間に皆さんは具体的・霊的に熱心に良く準備をしてくださいました。共同体としてよく一致して働いたと思います。

クリスマスの飾りも立派でした。イエス様は水巻教会で新たにお生まれになったと信じます。2014年を迎え、より一層イエス様に近づき、親密さを深めて共に歩きたいと思えます。

さて、早いですが、今年の四旬節について、考えてもらいたいと思っています。

昨年より2人の求道者が熱心に勉強されています。復活祭には洗礼を受けられるでしょう。神様が2人を送って下さいました。恵まれている教会です。

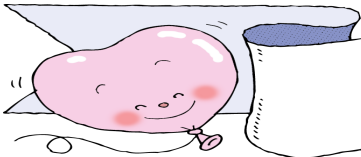
「成人のキリスト教入信式」序文に『第二バチカン公会議の決定によって、新しいキリスト教入信式では、教会共同体の参加のもとに洗礼前に段階的に典礼を行って、入信希望者の上に神の恵みを祈り求めることになった。この改定は、キリスト教入信の本質的な性格に対する洞察に基づいている。信仰は神のためものであるため、入信の過程においても、入信希望者自身の努力とともに、常に神の照らしとカづけが必要とされるからである。全教会が主の過越しを迎える準備をする四旬節

に、洗礼志願者も特別な典礼によって洗礼の準備をした上で、復活徹夜祭に入信の三秘跡(洗礼・堅信・聖体)に預かることは、もっともふさわしいことである。さらに、入信の全過程の中で、教会共同体の参加のもとに行われる種々の祭儀を通して、入信希望者は次第に教会の中に受け入れられて行くと同時に、共同体みずからも、宣教と回心の努力を新たにすることができる。こうして教会共同体は、宣教活動とともに、典礼行為を通して教会づくりに励むのであって、新しいキリスト教入信式は、キリストのからだの建設作業の典礼版と言えよう。(後略)

『新しい入信式の導入によって、教会づくりがますます力強く進められるよう期待する。』と、結ばれています。

2人は四旬節第一主日(3月9日)に洗礼志願者になります。今年の四旬節を一緒に歩きながら、復活祭を迎えたいと思います。

豊田神学生より	2面
信仰の自由を考える	2面
典礼委員会議事録	3面
大人の日曜学校	4・5面
レプトン会1日黙想会報告	6面
教会学校・典礼を学ぶ集い	7面
おしらせ	8面
典礼研修会案内	8面



豊田神学生よりお別れの挨拶

敬愛する一人の司祭から、このような話を聞きました。ある司祭が叙階25周年の銀祝の席で、お祝いを伝えに来た信徒たちに向かってこう述べたようです。

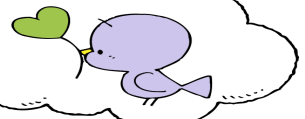
「何にもおめでたいことではない。誰でも25年経てば、25周年だ。むしろ、神のためにどれだけ働き、どれだけ信者のためになることをしたか、無為に25年過ごしてきたのか。それが問われていることだ。」と。

言葉は正確ではありませんが、そのような内容でした。この水巻教会の実習を終えるにあたって、私はどうであったか、ということを考えさせられます。何か霊的なものを示せたか、キリストを証しすることができたか、信仰の種を育てる土壌を耕す手伝いできたか、人をつまずかせることがなかったか、など、自問は尽きません。

不肖な身の私を受け入れて下さった、水巻教会の皆様へ深く感謝致します。私にとって、実り豊かな実習になりました。短い期間でしたが、マヘル神父様をはじめ、教会学校の子供たち、中高生の皆さん、リーダーの方々、役員の方々、ミサを分かち合った信者の皆様と楽しい時間を過ごしました。ありがとうございました。

2014年1月19日 豊田貴範

信教の自由を考える「2.11集会」のご案内



昨年はプロテスタントの篠崎教会に谷司教をお迎えして憲法問題の講演会がありましたが、今年はカトリック小倉教会で下記の通り行われることになりました。

昨年末に特定秘密保護法が成立しました。これは基本的人権が侵される危機で、戦前の社会へと向かうと言っても過言ではないと思います。田中伸尚さんのお話を聞いて、平和な社会で生きられる道と一緒に探してみませんか。昨年は北九州地区の全部の教会から参加者がありました。水巻教会からもたくさんの方の参加していただくようお願いします。

※期日と時間 2014年2月11日(火・祭) 14時~16時半

※場所 カトリック小倉教会

※テーマ 「壊憲と脅かされる人権」

— 戦後、もっとも危険な曲がり角に立って —

※講師 田中伸尚(のぶまさ)さん(ノンフィクション作家)

2013年度 第5回 典礼委員会議事録

開催日時：2014年1月12日(日)ミサ後 場所：信徒会館

《確認事項》

1. 北九州信徒協研修会 2月16日(日)午後2時 小倉教会
典礼についての講話が予定されている。典礼委員は、積極的に参加のこと。

《審議事項》

1. 朗読奉仕について

朗読研修会参加者を中心に朗読当番表(暫定)を掲示している。変更は担当者で対応してもらおう。引きつづき朗読希望者を募集する。

2. 葬儀の伴奏 CD 作成

とりあえず、既成の CD から冠婚葬祭パンフレットを参考に演奏を選び、CDR で作成する(浜口氏)。できれば、三谷、吉川氏のオルガン演奏によるCDRも作成する。

3. 灰の水曜日(3月5日)

灰の式とミサの時間 9:30と19:30

4. 四旬節は、入信者中心の典礼を工夫する。

四旬節第一日曜日に洗礼志願式を行う。共同祈願に洗礼志願者のための意向を加える。

5. 受難(枝の主日)の主日は、枝の行列から始める。

6. 聖木曜日(ご聖体の制定)

説教の後、洗足式を行う。(12名)

7. 典礼委員会日程について

日曜日ミサの後、神父様としては、教会学校や青年との時間を確保したい。土曜日 19時のミサ後、午後8時から開始してみる。

8. 典礼委員長交代について

自薦・他薦(神父様の意向を尊重する)

9. その他 年の黙想：日程は未定。共同回心式：3月28日の予定。

次回委員会予定

2013年度第6回典礼委員会：2月8日(第2土曜日)

信徒会館(週報でお知らせ)

四旬節、聖週間について。





大人の日曜学校（10月20日、ミサ終了後実施）の報告

先月号に引き続き、「信仰の証し」を掲載します。

馬渡島（まだらじま）に育った私とその信仰 宗 友次(折尾地区)

水巻に籍を置いて20余年が経ちます。自分のできごとを語りつつ、私の信仰生活を話させてもらいます。

私は、長崎県の馬渡島（まだらじま）で生まれました。なお、母は五島に生まれ、平戸に出てきた者です。私は生まれて間もなく、風邪をひいて、死んでしまいそうだったそうですが、父母は慌てて洗礼を授けようとして、教会に連れていったそうです。その後、健康を取り戻し、幼いころから、教会に連れて行かれました。

その馬渡島は、島の下半分は仏教徒。上半分の山側はカトリック教徒で、何かあれば喧嘩となるのです。仏教の方は本村、キリスト教徒は後から出来たので新村と呼ばれていました。

私が小さい頃、おばさんが私の家に泊まりに来ることがあり、夜にはロザリオの祈りを皆でしました。私はロザリオの繰り方がよくわからない、そこへ先上げ先唱役をする様に言われ、困りました。

中3の時、堅信式があり、式で、公教要理が頭に入っているか、司教様が質問をするのが決まりで、そこで答えられるかどうか、まるで一家の命運がかかっているかの様に捉えられました。

小学校から中学校を終えたとき、私の家は、造船業が家業であり、女5人が上です。だから後を継がないといけないと考えました。結局、中学校卒業の後、家業に従い、船を何艘か造りました。船作りの合間には、のり養殖や、ふぐはえなわの船にも乗りました。しかし、同級生28人のうち、島に残ったのは私と他の漁師の息子だけでした。私はもうこの辺で島を出て良いのでは、と思いました。そういうことで、21歳過ぎた時、島を離れました。学校も出ていないので、大きな会社には入れず、博多の八仙閣に入社。その会社は3年で辞め、大阪、名古屋と転職しましたが、また福岡に帰って仕事を探しました。

私は、若い頃から結婚するまでは、神様に対して悪いことをしたこともありますが、神様のことがよく分からなくても、心の中で、神様を忘れることはありませんでした。

そのうち、家族に嫁を貰うよう仕向けられ、島に帰ります。私自身カトリック教の人を嫁にしないといけなかったと思います。教会を知らない人と結婚すれば、困難な時があったときに、耐えることができず、家庭ももろくも崩壊していくのではと思いました。

私の父についてです。父は、耳が不自由だったが、朝夕のお祈りを忘れることはなかった人です。私自身は眠かった時など朝の祈り、夜の祈りも、しない時がたくさんありました。

父とは教会のことで、一つだけ、びっくりすることがありました。

私が40歳過ぎてから、ある時島に帰ってみると、次の日は日曜で、父が教会に行こうとしていました。その時父は体の調子が悪かったのですが、私が、教会に行かなくても、神様が許してくれると言うと、父は「聖体を頂くのは、たくさんのお恵みを頂けることなんだよ」と言いました。

私はそれを聞いて一瞬、心臓を一突きされた気分になり、心臓はどきどき鳴り、こんな気持ちにもなるなんて、と思いました。私も教会に行くことは大事だと知っていましたが、私の考えが浅く、なまぬるい信仰だったのでと反省しました。今では、私自身、聖体を頂くときに、ありがとうございますと、感謝の気持ちを持っています。その父は今、101歳。まだ存命です。これも神の恵みです。

もう1つの話は、私は20歳台後半のとき、ロザリオツアー（計15日間の旅）で旅行したイタリアの聖地、「サンダミヤ」。ここはマリア様が現れ、「この下を掘りなさい。水が湧き出します。」とおっしゃったそうで、私もその水をペットボトルに入れボストンバック一杯に持ち帰りました。その旅行ではアシジにも、ヴァチカンにも行きました。

帰国後、寝る前にロザリオを50回くり始めました。ところが、思わず眠気が催しました。

その時あの水を飲んでみるか？と思いました。そこで、その水の入ったペットボトルを取り出し、口に当てたところ、水が唇にあたった瞬間、眠気が流れ去ってゆくのが、はっきり分かりました。頭の中はすっきりし、海の水がさっと引いてゆくようでした。奇跡の様でした。それから私は最後までロザリオを繰ることができました。このことは兄弟たちにも、電話しました。今でもはっきり覚えています。

今、59歳、来年60歳。先祖が迫害を受けながらも守ってきたキリスト教を受け継ぎ、大切にしています。死からは誰も逃れることはできません。信仰に導かれ、最後には神の国から呼んで頂けるようになったらいいな、と思いながら。このような日々を送っています。



レプトン会 一日黙想会の報告

テーマ アジアの宗教の中の 私たち キリスト教

講師 ジュード神父 (古賀教会主任司祭、オブレート会)

1月18日 10時より15時までおこないました。今回は古賀教会のジュード神父様を迎えて20名余の参加者がありました。来年も行いますのでその時はご参加をお待ちします。(ジュード神父様の講話の要旨)

自分たちのキリスト教を知るためには、他の宗教の教えを知ることが大切で、他宗教の兄弟姉妹と一緒に住む時は彼らの立場・考え方を知ることが大切です。

今回新しく就任した枢機卿の中に、イスラム教が多いフィリピンのミンダナオで働いている大司教が選ばれました。教皇様は他の宗教とのかかわりを大切にされているのではないかと思います。

最初に、世界の宗教についての勉強(理解)から今回の勉強が始まりました。

インドを中心としたヒンズー教、アジアに広く広まっている仏教、中東とインドネシアに多いイスラム教、日本古来の神社(神道)、神道と仏教、ユダヤ教、キリスト教の成り立ちと特徴を学びました。これら宗教の発祥の地は全てアジアであるなど、それぞれの宗教との間にも共通点がたくさんあることも振り返りました。

そして日本の文化がキリスト教の中に取り入れられるようになったことを振り返りました。第二バチカン公会議では他の宗教とのかかわりを大切にしている、他宗教を知ることが勧められていますし、フランシスコ教皇様も勧められています。

教会は、アジアからヨーロッパなどの北に行ってその土地の文化と融合し、そしてまた帰ってきた教会の教えに無条件に従うのではなく、自分たちの考え、日本人の考えで教会を動かしていくように時代が変わってきています。

時代が変わっているのです。私たちがキリスト教をどのように示していくのが課題となっています。

私たちは今まで教会に宗教的に触れて宗教を考えてきましたが、本当は信仰を考えること、信仰を味わうこと、関わるのが大切なのです。教会に何人来ているかが問題ではなく、来ている人がどのような信仰を持とうとしているのが問題なのです。

問題は北へ南から伝道に行ったとき、北の人たちは受け入れてくれるだろうか。具体的に言うと、召命が減ってきている北米やヨーロッパに、アジアやアフリカから宣教師が来たら受け入れてくれるだろうか、これがこれからの教会の課題です。

今までの教会は、「こうしないといけない。このようにしてはいけない」という教え方でしたが、今はそうではありません。今までの教えはこうだったということに縛られてはいけないと思います。

報告者：岩本(遠賀地区)



教会学校のページ



1月12日

○この日は、福音(マタイ3章13節~17節)、主の洗礼について話し合いました。

ヨルダン川の洗礼者ヨハネのところに来られたイエス様が、どうしてヨハネから洗礼を受けられたか、話し合いました。

その後、そのころの洗礼の仕方は体全体を水の中につけていたことを豊田神学生に話をさせていただきました。

豊田神学生に「東方の3人の博士は何を捧げ物として持って来たのか」と聞かれて、子ども達は一つも答えられませんでした。

最後に「ありがとう」を歌いました。



「典礼を学ぶ集い」よりミサの構造と典礼暦 (連載予告)

三谷尚

次号から暫く、白濱神父を講師として実施されていた「典礼を学ぶ集い」(於、大名教会；約3年間継続)において学んだことを記述していこうと思います。なお、この講義が終わって1~2年後、私、三谷は、音楽についての典礼文書について学ぼうとして、白濱神父に、心臓強く個人的に尋ねに行った時期がありました。

典礼を学ぶ集いで講義は、大きく2つに分けられました。1つは、ミサの構造について、もう1つは典礼暦(ミサが迎える1年間)についてです。少しだけ中身について書いておきます：ミサ聖祭の構造は、言うまでもなくキリストの体を頂くこと(拝領)が中心ですが、言葉の典礼等も含めると、総じて、「ユダヤ教の過越祭の食事」との類似性、かつ過越祭に準じた「キリストの最後の晩餐」(パン→食事→ぶどう酒)との類似性が大切です。一方、典礼暦の構造は、①待降節と降誕祭、②年間主日、③四旬節~復活祭、④年間主日のそれぞれが、①キリストの待望、②宣教生活、③キリストの過越、④宣教生活ーキリストの来臨を待ちつつ、との大意を持っているとのこと。今後、これらを深く記述してゆく予定です。



2月のおしらせ

★子ども達の募金★

先月号で、合計金額のみお知らせしていましたが、送り先が決まりましたので、お知らせします。

カリタスジャパン	21,782円
水巻町社会福祉協議会	10,000円
美野島司牧センター	10,000円
合計	41,782円

ご協力ありがとうございました。

★新成人の紹介★

水巻教会に、3人の新成人の方がいますので、紹介します。3人は、1月1日のミサの中でも、紹介されました。

秋好 聡さん (中間地区)
 兼元 浩成さん (遠賀地区)
 豊岡 祐衣さん (中間地区)

★日本カトリック正義と

平和全国集会 福岡大会★

日 時：9月13日(土) 14日(日)
 15日(月)

場 所：カトリック大名町教会

テーマ：いのちを大切にする

社会を目指して

～見て、聞いて、知って、働く～

第38回目の全国集会ですが、福岡教区での開催は初めてです。教区主催として昨年6月に実行委員会を立ち上げました。

2月以降、福岡教区報や信徒協だより、その他の方法でお知らせします。全国から多くの方が来られるので、交わり学ぶに相応しい大会になるためにも、まずは参加をお願いします(1日だけでも可)。また、多くのスタッフも必要となりますので、協力の呼びかけも行っています。



典礼研修会のご案内

「典礼憲章の要点」とミサの意味

— 深く意識すべきこと —

今年も北九州地区信徒協、典礼部会の研修会を下記の通り行いますので多数の参加をお待ちします。

※日時 2014年2月16日(日) 14時～16時半

※場所 カトリック小倉教会

※講師 フランコ・ソットコルノラ神父(聖ザベリオ宣教会、真命山)

参加者名簿を聖堂後ろ掲示板に作ります。書き込みください。人数が多ければ、車の乗り合わせを考えます。